

P-062

復学後の子どもと親に対する担任教員のコミュニケーションの現状

下山 京子¹⁾、田崎知恵子²⁾、三浦 尚平¹⁾、
土屋 沙織¹⁾、中村 勝³⁾

¹⁾帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科、

²⁾東都大学沼津ヒューマンケア学部看護学科、

³⁾新潟大学大学院保健学研究科

子どもが退院し、復学後どのような学校生活を送っているか、医療機関においては、情報が得にくい現状がある。今回、病気を治療し、復学した子どもの担任経験がある教諭に対して、復学後どのように子どもとその母親と関わり、情報を得ているのか、アンケート用紙の自由記載より明らかにした。【方法】全国の小学校教諭、中学校教諭、高校教諭に対するWeb調査を依頼し、研究目的を読み同意を得られた教諭を研究対象者とした。同意が得られた小学校教諭・中学校教諭・高校教諭562名のうち、復学した子どもの担任経験のある教諭122名に調査依頼を行った。子ども・親に対する復学後のコミュニケーションの時期、及びどのような会話内容から、子ども・親から情報を得ているのか、自由記載を依頼した。自由記載に書かれていた会話内容より、コードを抽出し、内容分析を行った。【結果】子どもの会話内容に回答した教諭は、98名であった。内訳は、小学校教諭33名、中学校教諭40名、高校教諭25名であった。コードは184コードであった。子どもとの会話内容を分析すると、カテゴリーが7生成された。カテゴリー1.学校生活における情報収集、2.学習における確認、3.学校での人間関係に関する情報収集、4.本人の興味を共有、5.自宅での生活における情報収集、6.治療に関する情報収集、7.日常会話から情報を得るであった。親の会話内容の自由記載に回答した教諭は、93名であった。内訳は、小学校教諭31名、中学校教諭36名、高校教諭26名であった。コードは102コードであった。親との会話内容を分析すると、カテゴリーが5生成された。カテゴリー1.学校での子どもの様子を伝達、2.親から情報提供される内容の確認、3.病気に関する情報共有、4.学校生活に関する情報共有、5.日常会話から情報を得るであった。【考察】子どもに対しての会話の中では、復学後の学校生活の状況を確認することが多く、学習の確認では、他の子どもとの遅れや理解度を確認する項目が多く上がっていた。親に対しての会話の中では、子どもの学校の様子を伝達し、親の不安を軽減する配慮がされていた。また、子・親に対して、会話内容は決めておらず、日常会話より情報を得、子ども・親の様子から子どもの体調を捉えるという事もしていた。担任教諭は、学習のことも気にしつつ、子ども・親の困りごとがないか、常に配慮して、復学した子ども親と会話を行っていた。